

理事者室から こだわりが高じて…

副会長 濱田 広道 (39 期)

主な担当業務

会則等改正, 法教育, OA 刷新, 弁護士法人, 弁護士倫理, 市民窓口, 裁判員制度, 弁護士業務改革, 刑事法, 憲法問題, 刑事弁護, 人権擁護, 両性, 消費者



自分らしさ

理事者室の模様を伝えるのがこのコーナーの趣旨だとは思うのだが、同じようなことを伝えるのでは読者も飽きるだろう。

何か自分の特徴を出したいと思い、あれこれと思い巡らせてみた。4月号のLIBRA20頁の役員紹介欄に書いたポイントを除くと、これしかないかな、というのが、「小言じいじ」である。

社会人としての資質

弁護士になった途端に、弁護士という人たちはずいぶん社会常識がないのだな、と思った。「弁護士時間」と称して会議に遅れてはばからない、折り返しの電話をくれない、秘書に電話をかけさせてこちらが出てから電話口に出る。こういう人たちに、「私は小言じいじなのでご勘弁を」と断りながら、忠告をしてきた。

最近、理事者の間でも、同じようなことが話題にのぼった。最近の弁護士は、法律以前の問題として、挨拶をしない、依頼者に報告をしないなど、社会常識に欠けるのではないか、というのである。私は、「そういう傾向は、自分が弁護士になったときからあるので、若手に限った話ではないと思います。」と答えた。

ただ、市民窓口の報告を毎日見ていると、事件を放置しているとか、多額の報酬を請求されたとか、事実とすれば深刻な内容の苦情が増えているような気がする。実に心配である。

国語力アップ講座

小言じいじつながりで、もう一つ、日本語へのこだわりについて書こう。

私は、誤字・脱字・誤用、主語と述語の不一致、日本語の文法や慣用の無視、冗長な文章などが嫌いである。最近では、ワープロの変換ミスも目につくようになった。他人の文章にそういう部分を発見すると、つい直したくなってしまう。

そのような性分から、最初の理事者会で「諮問書や意見書の日本語の添削をしたいけど、許してもらえますか？」と生意気なことを言ったが、快く了承された。以前から、日弁連や東弁が外に発する文書の質が落ちてきていることを気に病んでいた自分としては、この任期中に、少しでも改善が図れればと思ったのである。

最初のうちは、せっせと朱を入れていたのだが、会務が忙しくなってくると、そのような時間は取れなくなってしまった。

悶々とした日々を過ごしていたところ、職員人事課から、職員研修の企画が持ち込まれた。題して、「国語力アップ講座」である。自信はなかったが、敵前逃亡は卑怯であるし、言行不一致は信条に反する。笑顔でお引き受けすることとした。

9月から2ヶ月に1回の割合で3回シリーズとなった。このLIBRAがお手元に届くのは2回目の直前ということになる。締め切りとの関係で、1回目の模様もお伝えできないのが残念ではあるが、東弁の職員はたいへん意欲的なので、それにお応えできるような内容にしたいと考えている。